BOOK

食べ物関係が多くスポーツ物も好き

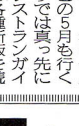
若いころは別として今は仕事がらみの読書があり、食べ物関係の本が多いですね。最近の作家の本は食味主体のほとんどレストランの紹介になっていますが、以前は開高健、吉田健一、池波正太郎といった作家が人生観や外国の文化に触れた食べ物の本を書いていましたから、少しさびしい気がします。

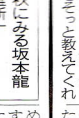
スポーツ物は好きで、元西鉄ライオンズの豊田泰光さんや新体操の山崎浩子さんの文章がよく、この人は書けるなら、何か書かせたい面白いだろうなと考えたりします。

愛蔵の1冊はジャン・グルニエ『孤島』。哲学的エッセーで、著者はアルジェの高校でカミュの先生だった人。カミュを見いだしたことで知られています。翻訳したのは大学に入ったときの私の『インドカレー伝』（河出書房新社）や『リクルート事件・江副浩正の真実』（中央公論新社）も興味深く読みました。

自著『パリ・旅の迷学ノート』（中公文庫）刊行から33年。2年に一度渡仏し、この5月も行く予定。パリでは真っ先に本屋へ。ラランガイドブックの各種新版を読み比べたりしますね。留学時代のパリを中心に思い出をつづった面文集『玉村豊男 パリ1968−2010』（東京書籍）を刊行したばかりです。

（エッセイスト、画家）





リレーコラム ほんとの話

玉村豊男さん

日帰り手術

下肢静脈瘤やポリープなど可能に

この間題を急に[illegible]してくれる。とって[illegible]ックになっている。

血管の老化によって起きる下肢静脈瘤は、中高年の女性に多い病気といわれる。自覚症状は脚のむくみやだるさなどで、ひどくなると潰瘍ができることもある。放置すると逆流を起こしている静脈を除去する「スロリッピング手術」を受けなければ[illegible]が空いしてしまうために病床の稼働率が低下してしまう日帰り手術は、医療機関にとっては収入が減ることを意味する。患者さんにとっては朗報といえる。

さらに、大腸や胃のポリープの切除や、ヘルニアの手術などでは入院が必要だった下肢静脈瘤の手術が、日帰りで受けられるようになったのだから、患者さんにとってより良い医療を行っている医者の収入が減ってしまうというのでは本末転倒である。日帰り手術に対する診療報酬の加算が求められる。

（新渡戸文化短大学長）

＝月曜掲載

[illegible]

[illegible]

[illegible]